

Lasting regrets result from things we fail to do, not those we do.

(この英文は大和証券グループのTVCMからの引用です。)

やったことの後悔に比べ、やれなかったことへの後悔はいつまでも残る。

最近のTV CM(commercial message) で面白かったのに次のようなものもありました。

少年はその店の店番をする少女が気に入り、買い物に行くたびに何度も声を掛けようとするがためらいがあり実行できない。それを繰り返しているうちに月日がたち、店の一家はどこかに引っ越してしまう。後に来たのはおばあさんであった。

時間がたつと周辺環境も変わり、いつでもできると思っていたことが出来なくなってしまうという例は、我々の身の回りでよくあることです。

やれるときにやらなければ、機会を失うことがあるということでしょう。

「明日ありと思う心の仇桜、夜半(よわ)に嵐の吹かぬものかは」 親鸞
出家しようとする親鸞少年の剃髪をためらう付け人に向かっての言葉、
一日延ばしにしているとチャンスを失うという戒めです。

ニュアンスは違いますが、「風と共に去りぬ」の終章にある “Tomorrow is another day” というのもあります。どちらかという今日は苦しくても明日に希望を託そうということばでしょう。
The last four words in the novel, *Gone With the Wind*, by Margaret Mitchell (1936).

Lasting: 継続する。 regret: 後悔。 result: 結果する、起因する。 those: ここでは、things